

会員のば

古文書解読の勧め

札幌市医師会
札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル

沢井かおり

道産子として四半世紀、大学を出てからハマっ子になり30年、一昨年故郷に帰ってきた産婦人科医・漢方医・臨床遺伝医です。

私の趣味の一つが、8年前から通信講座などで学んでいる古文書解読です。主に江戸時代の公文書を対象としています。江戸時代は徳川幕府の管理が日本中に及んでいて、文字も「御家流(おいえりゅう)」に統一されているので、中世戦国時代よりは読みやすい文書が多いです。といってもすらすら読めるものばかりではなく、字典片手に前後のつながりなどを考えて一文字ずつ…ということもよくあります。

はじめはパズル的感覚で、「何という字かわかる」ことをゲームのように楽しんでいました。しかし江戸時代の公文書を読む本当の楽しさは、武士や町人や農民の暮らしが生き生きと感じられることです。倭約令の最中に娘の結婚式を盛大にやっちゃった庄屋さんが「婿方が勝手に豪勢な結納品を持ってきちゃって」とか「絹の衣装はお古なんです」(庶民は絹禁止でした)とかお上に言い訳している文書や、担当先のツケの回収ができずに困り果てた大店(おおだな)の奉公人が、店を飛び出してツケ回収祈念に日光へ参詣に行ってしまった、ある意味とても真面目な青年のお話(後述の「古文書はこんなに魅力的」)など、江戸時代の人々がとても身近に感じます。

以前の地元である横浜市磯子の名主堤家文書(横浜開港資料館蔵)の中には、金蔵の女房まつと密通していた半右衛門が、見つかって追及されたら逆ギレして村人を罵ったりしているものもありました。このような地域の古文書=地方文書(じかたもんじょ)は資料館や博物館、公文書館などの蔵書の中から探します。

さらに観光先の博物館などでも楽しみが広がります。仙台藩白老元陣屋資料館には、東北から白老に赴任する途中の航海日誌があり、読みやすい文書でした。風向きや風力によって出航したり停泊したり

戻ったりと、右往左往ともいえる様子が見て取れ、動力のない船での困難な航海に思いを馳せました。

また、解読の途中で古文書とは別の発見をすることがあります。先日「この字は竹かんむりだ」ということは分かったので、漢和辞典で文脈に合う竹かんむりの字を探していくと…探していた字ではないのですが「笑」という字がありました。おなじみの字ですが、今まで竹かんむりだということを意識したことはありません。どうして竹かんむりなのだろうと説明を読むと、「咲」の字が誤って伝えられたものということでした。武井咲が「たけいえみ」なのは知っていましたが、「わらう」という意味は「咲」が先だったのかと妙に納得しました。豆知識にもなりません…。

ちょっと興味を持ったそこのあなた！ 油井宏子先生の「古文書はこんなに面白い」「古文書はこんなに魅力的」「絵で学ぶ古文書講座」を読んでみてください。特に「絵で学ぶ古文書講座」はお勧めです。難破した漂流船の乗組員がアメリカの捕鯨船に救助されて日本に戻るお話です。古文書解読部分はすっ飛ばして、お話として読むだけでもワクワクしますよ。

一方、古文書解読をしているというと、掛け軸になんて書いてあるの？と聞かれることがあります。いわゆる「書」の多くはクセが強くて読めません。某鑑定番組に出てくる偉人の達筆な書もほとんど読めません。あしからず。

